

TEL : 092-802-2728 / FAX : 092-802-2712

第3回九州工学教育協会シンポジウム

進化する自動車産業を支える工学教育

「基礎」から「発想」へ ～未来を見る力～

自動車産業は、日本の基幹産業の一つであり、世界に誇れる技術力を持っている。自動車の駆動力は急速にエンジンから電気および燃料電池と移行しつつあり、さらに人工知能を駆使した自動運転も開発されている。技術はどのようにして急速に変化できるか、このような「未来」「ビジョン」「夢」を感じさせる技術を創造する技術者を育成するためにはどのような工学教育が必要であろうか。我国における選りすぐりの自動車開発技術者を講師に迎え、具体的な最先端技術の紹介とそれにたどりつくための工学教育を語っていただくとともに、大学院、大学および高専で工学教育を担当するパネラーと、今後の工学教育の在り方をこのシンポジウムで議論する。

プログラム

◆ 第1部 基調講演 13:35～15:15
◆ 休憩 15:15～15:30

◆ 第2部 パネルディスカッション 15:30～16:30
◆ 交流会 博多駅周辺 17:00～18:30

トヨタ自動車株式会社
先進技術開発カンパニー F C技術・開発部 主査
高橋 剛 Tsuyoshi Takahashi



1987年3月 九州大学 工学部 機械工学科 卒業
1989年3月 九州大学 大学院 総合理工学研究科
エネルギー変換工学専攻 修士課程 修了
// 4月 トヨタ自動車株式会社 入社 車両実験に従事
1992年 燃料電池開発に従事
2005年 F C技術部機能設計室室長 水素タンク等の設計を担当
2010年 「新型燃料電池ハイブリッドシステムの開発」で
自動車技術会 技術開発賞を受賞
2010年 技術統括部主査 次世代電動車の導入企画を担当
2014年 F C開発部主査 F Cシステムの先々行開発を担当
2016年 現在に至る

「私が燃料電池開発を通して学んだこと」

本講演では、トヨタのFCV「MIRAI」のスペック、特徴、トヨタのFCV開発概要を解説する。また、開発の中で自身が感じ、学んだ幾つかのキーワード「常識を疑うこと」「現地現物」「発想の転換」「仲間・チームプレー」や、各キーワードに対する開発上の出来事、エピソードを通じて気づき、学びを紹介し、エンジニアとして働き始めた頃と現在の価値観・意識の変化等を述べる。

株式会社本田技術研究所 主席顧問
新井 康久 Arai Yasuhisa



1981年1月 株式会社本田技術研究所 入社
2004年6月 Honda R&D Americasに駐在
2005年4月 // 上席研究員
2008年4月 (株)Honda Research Institute 代表取締役社長に就任
// 6月 株式会社本田技術研究所 取締役役に就任
2010年4月 常務執行役員に就任
2012年4月 専務執行役員、同年6月に取締役 専務執行役員に就任
2014年4月 九州大学大学院統合新領域学府 客員教授に就任
2015年 自動車技術会フェローに認定
2016年4月 主席顧問に就任、現在に至る

「先端技術の現場は人材育成の場 ～F1とASIMO」

レースの世界とロボットの世界は、Hondaの技術的挑戦であると同時に、人材育成の場である。将来を担う人材が育っていくことは、長期的な視点で非常に意義が大きい。F1では、異なる文化のエンジニア同士の共同作業によって、最短時間で成果を出していく必要がある。ASIMOの開発では、社会と共存・調和を目指し高度な制御技術や環境認識技術、より自由な作業を行うためのハードウェアの開発にチャレンジし続けている。本講演では、自身の経験に基づき、高い目標に挑む極限の環境によって身につけていく「何が大切か」の判断力・展開力・現場力について述べる。

日産自動車株式会社
総合研究所 モビリティ・サービス研究所 主任研究員
西羅 光 Hikaru Nishira



1999年3月 東京大学 大学院 工学系研究科 計数工学専攻
修士課程 修了
// 4月 日産自動車株式会社 入社
// 6月 総合研究所 電子情報研究所に配属
2004年 // 第一技術研究所に配属
2006年 // 社会・フロンティア研究所に配属
2010年 // モビリティ・サービス研究所に配属
2012年 同所 主任研究員
2016年 現在に至る

「自動運転システム研究と悪戦苦闘する中で思うこと」

自動運転システム研究のマネージャーとして、自動運転技術が交通社会を変革していく様子を想像してワクワクしつつも、日々、膨大な課題の中で悪戦苦闘している。具体的な技術例を示しながら、その研究開発を担うエンジニアに必要な技術力や専門知識、マインドセットについて実感していることを語りたい。さらに、企業の研究開発の最前線で活躍する人材育成のために大学と企業ができることについて、自身のエンジニアとしてのキャリアとマネージャーとして部下と接してきた経験から得られた気づきをお伝えしたい。

- 参加受付の完了連絡は、メールにて行います。全項目必ずご記入ください。
- 1週間経っても参加受付メールが届かない場合は、お手数ですが事務局までご連絡ください。
- 定員に限りがありますので、お早めにお申し込みください。

- ① メールで申し込み koo8100@jimu.kyushu-u.ac.jp
- ② FAXで申し込み 092-802-2712 以下に記入の上、送信ください。

法人・団体名	(九工教会員・共催会員・学生・その他一般)		
住 所	〒 ー		
参加者名	交流会 (参加する・参加しない)		
電話番号	E - m a i l		

お問い合わせ 担当：九州工学教育協会事務局 樋本（はげもと）・日野 ホームページ：<http://qsee.jp/>
TEL：092-802-2728 FAX：092-802-2712 E-mail：koo8100@jimu.kyushu-u.ac.jp
受付時間 月曜～金曜 9:00～16:00 主催：九州工学教育協会 共催：自動車技術会九州支部／日本機械学会九州支部